

## 学校経営の概要

山と川、横手城、官公庁、公共・商業施設等といった自然・社会・文化的資源に恵まれた本校では、様々な家庭環境にある児童たちが多様性を認め合いながら、生き生きと明るく穏やかに学校生活を送っている。また、本校教育活動に対する保護者・地域住民、関係諸機関等の理解と協力は素晴らしく、どのようなことでも相談依頼ができ、学校と同じ方向を向き‘子どもたちのために’と伴走してくださる応援団が多数存在する。

今年度は横手市教育推進委員会「“自ら学ぶ子どもの育成”推進事業」の研究指定2年次目に当たる公開研究会、さらに創立150周年記念関連事業の展開と、2つの大きなイベントが予定されている。令和の新たな教育観に思い切って舵を切ることが求められている今、このような機会を生かし、児童一人一人の潜在的な知性・感性・エネルギーを引き出し、豊かな学びと関わりを通して「自ら育つ」子どもの姿を体現することのできる学校、地域の中心にあってキラリと輝きを放つ学校を目指したい。

昨年度はじめに職員全員で出し合った学校・児童・地域等の実態をもう一度見直してみる。プラス面は一層ブラッシュアップを図るとともに、課題として残る部分については更に工夫・改善を重ねていくこととする。

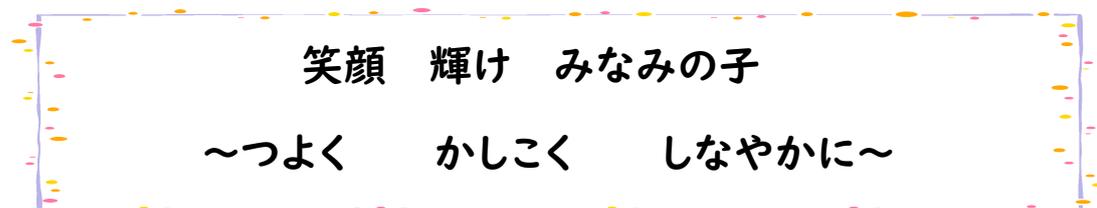
	子ども	内部・外部環境
よさ ・強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大人数 多様性ある集団</li> <li>○認め合う・受け入れる・協力し合う</li> <li>○明るく素直で温かい</li> <li>○興味・関心高く、伝えたい・話したい意欲がある</li> <li>○真面目で一生懸命 やる気がある</li> <li>○ここぞという時の底力 本番に強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○横手市の中心</li> <li>○文化・産業・自然・人</li> <li>○多くの地域資源に恵まれている</li> <li>○横手南小ブランド「やっぱり南小」</li> <li>○協力的な地域・保護者</li> <li>○伝統行事との関わり</li> </ul>
願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個を生かす 自分のよさを発揮する</li> <li>◆異学年の関わり・交流・活動の充実</li> <li>◆相手意識をもって</li> <li>◆『横手愛』の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇教育活動の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材活用</li> <li>・保護者、地域を巻き込んで</li> <li>・体験活動の場</li> </ul> </li> </ul>

アフターコロナの再挑戦として、全校での運動会や、かまくらまつりにおけるおもてなしPR作戦に取り組んだ。大規模校ならではのダイナミックな活動、大人数で心を一つにして何かを成し遂げる達成感、思いを誰かに届けることで自分も感じられる喜び等、子どもたちは他と関わり合うこと、自分のよさを発揮することが様々なプラスを生み出し、自らの成長につながっていることを実感してきている。

今年度はさらに、異学年同士・全校一緒の諸活動の充実を図るとともに、本校の恵まれた教育資源を最大限に活用し、子どもがそれぞれに学び方を選択し、学びの過程を自ら調整しながら課題解決に向かう教育活動を展開していきたい。

### 1. 教育目標と経営の基調

#### 教育目標



## 目指す子ども像

<b>つよく</b> 夢や目標に向かって 粘り強く取り組む子ども	<b>かしこく</b> 自分の考えや思いをもち 学びをつないでいく子ども	<b>しなやかに</b> 自分で判断し 柔軟に対応できる子ども
☆自分のよさに気付き、自信を持って行動できる子ども  ☆夢や目標に向かって、主体的に取り組もうとする子ども  ☆失敗や結果を恐れることなく、チャレンジ精神で取り組もうとする子ども	☆自ら課題や問題を見付け、主体的に考え、解決しようとする子ども  ☆他者と協働して学び合い、考えを深める子ども  ☆既習事項や体験等を、日常生活や次の課題解決に生かしていく子ども	☆相手や場の状況に応じた振る舞いができる子ども  ☆これまでの経験値を生かしながら、様々な解決の道筋を工夫する子ども  ☆想像力を働かせ、優しさをもった言動を心がけようとする子ども

## 経営の基調

# 「子どもが主役」に舵を切れ

- ◇笑顔咲く楽しい学校
- ◇子どもが育つ学校
- ◇信頼される学校
- ◇地域に開かれたみんなの学校

## カリキュラム・マネジメントの充実

《目標実現に向けて、学校や教師集団がチームとして、学年・学級の枠も超えて、協働的・組織的な実践とその改善に取り組むこと》

カリキュラム・マネジメント：学校教育の関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

急激に変化する時代の中で、今、学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

子どもたちに求められる資質・能力としては、次のような具体が挙げられる。

- 文章の意味を正確に理解する読解力
- 教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力
- 対話や協働を通して知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力

資質・能力の育成に向けた学校の風景は、時代の変化とともに大きく変わるということを自覚しなくてはならない。今年度の経営の軸は『子どもが主役』ということ。この一点に集約。一点突破。

子どもを主役にするということは、予め教師の構想をベースに、うまくいくようにお膳立てされた見かけの「子どもが主役」の教育活動を指すのではない。子ども一人一人の思いや願いが起点となり、試行錯誤したり協働したりする必要感が生まれ、真に子どもが課題解決のために「自らを動かす」時間と空間が展開されていくこと。子どもを信じて子どもに委ねる教師側の意識改革があって初めて実現するものなのである。このことは、授業のみならず、全教育活動のベースに据えて取り組んでいきたい。

子ども自らが熱を帯びたモーターとなって、楽しく豊かに学び続けることができるよう、これまで以上に一人一人の内面にまで心を配り、丁寧に見取り、環境を整えよう。どの子どもも輝く原石である。職員みんなが南小にいる全ての子どもを信じ、子どもに委ねていこう。

## 2. 経営の重点

### 職員全員で目指すもの…

- 学びの改革により、子ども一人一人の資質・能力が着実に向上する学校でありたい。
- 組織・チームとして、何事にも誠意をもって、速やかに対応する学校でありたい。
- 保護者や地域の思いや願いを受け止め、連携・協働する学校でありたい。

### 重点実践項目

- ①ねらいと目的を明確にした「子どもに委ねる」教育活動の推進
  - ・「子どもたちが創る子どもが主役の授業」を目指す同一ベクトルの研究実践
  - ・児童の主体性伸長に資する、子どもの発想、企画・運営を核とした自治的活動の活性化  
(児童会主体の全校朝会、縦割り班活動、委員会、学級活動等)
  - ・地域社会の教育的資源(本物)を積極的に取り入れた自分事としての学びの積み重ね
  - ・「説明する」言語活動の質の向上(考えの裏打ちとなる根拠や資料の提示による説得力up)
  - ・読書活動の充実、「調べる」「まとめる」力の育成に資する図書館の利活用
  - ・読解力向上に資する「よむYOMUワークシート」の活用
- ②どの子どもにもあるよさや得意が「+プラス」を生み出す生徒指導の充実と特別支援教育
  - ・チーム担任制も生かした多角的多面的な児童理解を土台とする子どもの見取り
  - ・変容や問題の早期発見とチームで関わる迅速・適切な初動、誠意ある相談対応
  - ・個々のニーズに応じた校内支援体制の充実、関係諸機関等とのスムーズな連携
- ③学校運営協議会(コミュニティ・スクール)及びPTA、諸関係機関等との連携・協働
  - ・「地域に開かれた横手南小学校」が実感できる学校・家庭・地域相互の関わりの創出
  - ・目指す子どもの姿の実現に向けた双方向アプローチの重視
  - ・横手南中学校区小小連携による合同授業、ICTを活用したオンライン授業の実施
  - ・横手清陵学院中学校とのICT・プログラミング教育連携
  - ・地域ボランティア(ヨミーナ、昔語りの会、ジョヤサの会等)との連携強化
- ④研修及び学校教育力向上に係る具体的な取組
  - ・「自ら学ぶ子どもの育成」推進事業に向けた研究実践の推進  
【研究主題】生き生きと学び 自らを高めていく児童生徒の育成  
～「子どもたちが創る 子どもが主役の授業」を目指して～
  - ・校務分掌担当のペア制等、協働性・関係性強化によるミドルリーダーの育成
  - ・チーム担任制・児童を語る会(特別支援教育を含む)を通じた全教職員の情報共有
  - ・横手南小学区「架け橋プログラム」完成を踏まえた幼小連携の推進
- ⑤危機管理意識の向上による安全・安心な学校生活の保障
  - ・今起こり得る、起こるかもしれない「最悪の状況」を想像して迅速・的確に対応できる職員チーム
  - ・校舎内外の安全管理と環境美化・整備の強化
  - ・災害発生緊急時等、保護者引き渡しシミュレーションの検討・体制構築・周知徹底
  - ・「今まで何も起こらなかったから大丈夫だろう…」→「準備も体制も万全だから大丈夫!!」

★創立150周年を記念する「子どもが主役」の取組を展開

大運動会(5月)

公開研究会(11月)

お祝いする会(11月)

ようこそ横手のかまくらまつりへ(2月)

